

# 都小道研会報



## 「皆様、一年間ありがとうございました」

東京都小学校道徳教育研究会会長  
江戸川区立南小岩小学校校長  
吉 田 友 信

おかげさまをもちまして、令和六年度の  
本会全ての事業を終えようとしています。  
先ずもつて、これまで一年間のご支援とご  
指導をいただきました文部科学省、東京都  
教育委員会、各地区教育委員会、全国小学  
校道徳教育研究会、東京都中学校道徳教育  
研究会、顧問・OB会、各地区理事・部長  
の皆様方に、感謝申し上げますと存じます。  
同時に、都小道研全体や各部の過去・現在・  
未来の姿を共に設計し、運営した役員・理  
事と各部の活動を支えた部員の皆様、一年  
間の真摯な取組に深く感謝しています。

私自身は会長として、十分な指導力や機能  
を果たしていませんが、「都小道研の活性化」  
のため、次の二つを意識し続けました。  
一つは、自ら大切にしている「研究は厳  
しく、人間関係は温かく」の思いを本年度  
の合言葉とし、毎月の指導者研修会におい  
て、まず役員・理事に向けて伝え、組織力  
を高めるように努めました。具体的には、  
勤務校においては校長として、各地区をは  
じめ様々な組織においても要職を務め対応  
する役員・理事の労を思い、希望と勇気を  
もつてその役に向き合えるよう会長講話に  
願いをこめました。その内容は、道徳教育  
以外にも、世の中の出来事、組織経営、勤  
務校における実践等も含め、多岐にわたり  
なるべく自身の人間性を表すようにしまし  
た。また、会終了後に食事等を共にする時  
と場をなるべく設定し、各自が直面し対応

している事柄を相互に聴き合うようにしま  
した。こうして、役員・理事の距離を縮め、  
結束力を高めることにより、「都小道研全体  
の組織力の向上」をねらい続けました。  
もう一つは、都小道研の活動がより活発  
になるよう、参加意識の高揚のための策を  
講じました。具体的には、本年度から、部  
員登録、名簿掲載、大会参加申込等につい  
ても受身ではなく、能動的に参加する意識  
を高めるため、各自が二次元コードから登  
録や申込を行うシステムに移行を始めまし  
た。これには都小道研ホームページで発信  
する情報の改善も連動させることが必要で  
した。こうした役員・理事・部員の努力と  
協力により、事務作業の効率化や軽減とい  
う副産物も生み出すことができました。以  
上のような取組により、参加意識の高揚か  
ら「都小道研の活性化」をねらってしま  
した。

それらが功を奏し、一月二十七日(月)の  
江戸川区立南小岩小学校を会場とした「第  
六十二回臨時総会並びに研究発表会」には、  
予想を上回る二五〇名以上の参加者があり  
ました。令和七年度には、そこで出された  
本年度の成果と課題を踏まえ、着手すべき  
事項を見極めながら、道徳教育の更なる発  
展のために、関連機関等と深く連携を図り  
ながら、オール都小道研の総力を結集して、  
ますます挑んで参る所存です。全ては、児  
童が「よりよく生きるための基盤となる道  
徳性を養う」ことにあります。

関係の皆様、引き続き都小道研へのご理  
解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 令和七年度の主な予定

「第六十三回定期総会並びに道徳講演会」  
日程：令和七年六月六日(金)  
会場：未定

「役員の還暦をお祝いする会」  
日程：令和七年六月二十日(金)  
会場：日本教育会館 九階 喜山倶楽部

「第五十九回関東地区小学校  
道徳教育研究大会茨城大会」  
(研究部発表)  
日程：令和七年十一月二十八日(金)  
会場：茨城県土浦市立土浦第二小学校

「第六十三回臨時総会並びに研究発表会」  
日程：令和八年二月六日(金)  
会場：未定

「全小道研研究発表大会」(研修部発表)  
日程：令和八年二月十三日(金)  
会場：日野市立日野第一小学校

各地区の理事・部長の方々へ  
本会報を区市町村教育委員会へ二部、  
各小学校へ一部配布をお願いします。

発行所 東京都小学校道徳教育研究会  
事務局 江戸川区南小岩四一六一一  
発行 会 長 吉 田 友 信  
広報部長 関 祐 一



講師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター  
研究開発部 教育課程調査官  
堀田 竜次 先生

講演 「よりよく生きるための基盤となる

道徳科の特質を生かした学習指導法の工夫」

皆さま、こんにちは。先生方、午前中授業も行われてここにお集まりだと思いますが、このよくな月曜日の午後に、みんなが集まって学び合うことができるといことは、大変うれしいと思っております。まずは都小道研が進めてこられたことを振り返り、そしてその後、せっかくだから、南小岩小学校のこれまでの取組を振り返りながら、今日の学びとすることができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

〈中教審〉  
それでは、南小岩小学校のテーマと合わせた演題で行きたいと思えます。ただ、この奥には都小道研のテーマももちろんあるというところはご理解いただければと思います。

昨年末、十二月二十五日に文部科学大臣が、中教審に諮問をいたしました。この諮問については、ホームページにアップされており、五ページしかございませんので、印刷等をして熟読していただければと思います。

ただけると嬉しいなと思えます。これが二〇四〇年に向けた次期学習指導要領の方向性等に大きく関わってきますので、ぜひ、お読みいただければと思います。また、初等中等教育局、教育課程課等の熱い思いが、この五ページの中に含まれております。

都小道研は、研究主題、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」非認知能力の育成と道徳指導の関連」ということで、各々が発表をしてくださりました。今日、話題になっている非認知能力につきましては、中教審の初等中等教育分科会の幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会の意見等の整理の中で示されていきました。特に、

研修部の資料で構造的にまとめられてあって、分かりやすかったかもしれないと思っております。これは研究部もしっかり触れてきています。

そういつた中で、調査部の資料ですが、教職員を対象としたものについては、千二百ぐらいの母数があることがすごいです。非常に貴重なデータになると思えます。また、児童の調査も、この自己肯定感について三十一％でした。これまでの調査の中で一番高かったと伺って、先ほど吉田会長から小学校の学習指導要領が七年日に入って、中学校が六年日に入ったというお話があったわけですが、まさに、道徳科の評価について、先生方にご理解いただけていて、日頃の授業で行ってくださっているからだと、私は思っているところですね。そして、子供たちの成長を受け止めて認め励ますわけですので、先生方が道徳科の授業の中で日頃から子供たちの成長を受け止めて認め励ましてくださっているから、自己肯定感が高まっているのだと思えます。

調査部の資料(堀田先生のスライド資料)に着目すると、結果は全部高いのですが、③(物事を多面的・多角的に考える)と④(自己の生き方について考えを深める)があえて言うところ、少し低めです。研修部からのご発表にもあったように、目標については絶対に外してはいけないということですが、「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」ことを意識して、授業を展開する必要があるということ

です。学習を展開するにあたって、解説の最後のところに、授業に対する評価の観点の例というのが掲載されています。十一月に全国の指導主事等会を行ったときに、各都道府県等教育委員会で、この観点の例から課題になっていくことを挙げてもらったところ、「ア」(学習過程の構成・指導の手立て)が一番多かったです。まさに目標そのものことですね。要するに目標の学習活動をしっかりと行うことが大事ですよということが話題になりました。二つ目に話題になったのが、「ウ」(傾聴・児童の反応を指導に生かすこと)です。今日もいろんな部から出てきていましたが、発問については、あともう一つ私がやっぱり大事にしてほしいなと思っているのは、「カ」(配慮を要する児童への対応)の部分です。今回、中教審に諮問した諮問文の中にも、包摂という言葉がたくさん出てきます。様々な配慮が大切になってくると思えますので、その適切な対応のあり方については、また、みんなで学んでいくことができればと思えます。

〈授業の場面から〉  
今日の授業だけではありませんが、南小岩小では子供たちが多面的・多角的に考える場面をたくさんつくって来ています。まずは、子供同士で語る場面もしっかりとつくるのが大事です。この場面がなければ、多面的・多角的に考えることはできません。特別支援学級の授業の中では、多面的・多角的に考える一つの方法として、役割演技をしていました。役割演技が行われることによって、子供たちは、いろいろな見方ができるようになるわけです。この他にも、大型提示装置やタブレット端末を使った共有の大きな大きな一つの手段になります。もっと言えば、協働的な学習と個別最適な学習が、同時に進行する伏線的な授業も出てくるかもしれません。多面的・多角的に考えている姿が見られる場合もあるかもしれません。もう一つ着目しておきたいのは、自己の生き方についての考えを深めるということです。この自己の生き方についての考えを深めるについては、私は、特に大事にしてほしいと思えます。

〈今日の授業から〉  
さあ、このような中で六つの授業を、都小道研の皆様がそれぞれの部ごとにテーマをもって授業を展開してくださいました。

まず、一年生、菅原先生ですね。音楽を流しながらの教材提示でした。子供たちは、主たる教材の生き方について学んで、自己を深く見つめるわけですね。だから、この導入時の教材の提示の工夫というのは非常に大事でした。飛び込み授業です。子供たちはグッと引きつけられていました。

二年生、大樂先生の授業の場面では、「ゆつきとやっち」の教材を活用しながら、子供とその発問した内容についてやりとりしている場面でした。友達同士でこの教材を活用して、発問した内容についてやりとりしている場面でした。この授業の前に話していたりとか、また、グループで話していたりという場面もあるかもしれません。この授業においても、例えば先生と友達とやりとりしているときに、他の友達がしっかりと聞いていました。発問に対して自分との関わりで考えている中で、友達の発表を聞きながら自分の考えはどうかと考えている姿につながっていると思つたところですね。

三年生、奥村先生の授業、「花さき山」ですね。これは、感動、畏敬の念、先生方のデータの中にも感動、畏敬の念はちよつと難しいという回答がありました。今回、道徳教育アーカイブに授業を一本、感動、畏敬の念を公開しておりますので、

〈自己の生き方について考える〉  
今日、吉田会長のお話の中にも、人生いかに生きるべきかというお話がありました。生き方の問いを深める。まさに自己の生き方についての考えを深めるということです。自己を深く見つめる必要があるということです。自己を深く見つめるということ。そうすることによって道徳的価値の自覚が深まるということです。やはり、私たちは、この自己を深く見つめるような場面をつくる必要があるということです。道徳科の授業で、そういったことは、お配りしてある資料にも、伸ばしたい自己を深く見つめられるとしっかりと書いてありますので、意識したいですね。

ぜひ、ご覧ください。

「美しい」とは、いろんな感じ方、考え方があ  
るわけですが、それを導入の段階で、自然の美し  
さ、人がつくった美しさ、そして花さき山につな  
がるであろう心の美しさについて、導入で確認し  
ながら、花さき山の教材に入っているということ  
が、板書と先生とのやりとりで分かりました。ま  
つこの学級の子供たちは、三分ほどしか見られま  
せんでしたが、この後、人の心の美しさに感動、  
畏敬の念を手がかりとして、教材の登場人物の生  
き方について考えていただろうと思います。

四年生、菊地先生「泣いた赤おに」。この授業で  
は、板書が私は印象的でした。子供の思考の流れ  
が、この板書の中でしっかりと構造化されている  
と言ったほうがいいでしょう。

奥村先生、菊地先生は、飛び込みで入っていらっ  
しゃいます。子供の発言を予想していかないとい  
うまく発問はできないと思います。発問がしつかり  
と精選されて、その問いが子供の問題意識につな  
がっているかどうか非常に重要です。それが意  
識の流れとして板書に表れていました。こういっ  
たことは板書の工夫では非常に重要なポイントに  
なるだろうなと思うことでした。

五年生、大瀧先生の授業。「銀のしよく台」です。  
相互理解・寛容。本当に許していいのかわかり  
うとかが時折あるわけですが、そういった様々  
な議論が考えられる中で、教師もともに学ぶ、と  
もに探求するというような形でした。先生がちよ  
うと子供たちとやりとりをしている場面を参観す  
ることができました。そして、終末では、許すとい  
う言葉にも様々な種類の許すの感じがあるとい  
うことを、この銀のしよく台の子供の発言と関連付  
けながら、最後、板書していただきました。  
「許す」ということも、いろいろな「許す」があ  
るなあと、相互理解・寛容を手がかりとした授業  
の際には考えていく必要があると思います。

そして、六年生、安村先生の授業です。説話の  
部分を見ていただければと思います。教師の説話  
を大事にしていることが分かりました。ご自身の  
ご家族との経験を子供たちに本当の話として話す  
わけです。すると、子供たちが生命の尊さに関わ

る課題や目標を整理することができるような説話  
になっていったと思います。

〈南小岩小学校では〉

今から南小岩小学校のお話を十分ぐらいます  
が、私も「研究同人」と呼んでもらっていいか  
なと思っています。吉田校長と教職員の皆様と一  
緒に、私も研究をしてきた一年でした。何よりも  
すこかったのが、教職員一丸となった取り組みで  
す。先生方が、吉田校長、本間副校長を中心にガ  
チッとまとまって、子供たちをいかに育てていく  
かという同じベクトルで、道徳教育を展開してく  
ださっていたのがよく伝わってきました。例えば、  
ホームページにも、吉田校長自らが全校朝会での  
お話を公開していて、同じベクトルで子供たちを  
育てていくというように思えることがい  
っぱいでした。また、研究主任の大石先生や、その  
他研究部の先生方が、いろんな役割分担をしながら  
た研究を進めてくださっているのも、よく伝わ  
た1年でした。研究授業のことか、そのままと  
を矢部先生が行う。道徳教育元年ということ  
で、先生方は共通理解・共通実践を柱として道徳性を  
養うということを一年間進めてきています。その  
中で、私が大事にしてほしいことが道徳科の特質  
です。内容的資質としての道徳性を主体的に養  
っていく時間だということは確実に忘れないよう  
にして、道徳科の授業を日々展開していきましょ  
うとお伝えしてきました。また、明確な指導の意  
図をもった上で、指導方法の工夫をしましょ  
うということで、指導の意図をもって研究授業を行  
ってきました。例えば、一年生の田中先生の授業では  
、「かぼちゃのつる」、これはダイナミックな教材提  
示でした。三年生の山本先生の授業では、話合  
いの工夫の視点でした。五年生の大瀧先生の授業も  
話合いの工夫、ICT端末を活用していました。

そして、みづばち学級原先生の授業は、振り返り  
の場面、最後の場面で、今度は、子供たち同士  
の役割演技を行いました。親切、思いやりの言葉が  
とても印象的でした。これは、クマやウサギさん  
の生き方を通して学んだことを、最後の振り返り  
自己を深く見つめる部分での役割演技で、学習し  
てきたことを大いに発揮していた場面でした。

表現活動の工夫、田中健三郎先生の授業での役  
割演技です。野口先生の授業では、板書を生かす  
工夫、構造的な板書、大事です。子供たちが思考  
の整理ができます。そして、四年生の大友先生の  
授業は、教師の説話に自分の家族の写真を取り上  
げ、子供たちに話をしていました。

そして、今日の授業、一年生、吉田先生の授業  
やっぱり教材提示の工夫がありました。一年生、  
熊田先生の授業では、先生が教材を子供たちと一  
緒に、じっくり考えられるような雰囲気をつく  
てくださっていました。三年生、照沼先生の授業  
は、多面的・多角的に考えることができるように  
役割演技を行い、交代しながら考える場面があり  
ました。四年生、大石先生の授業は「絵はがきと  
切手」。子供たちに問うたことが板書でしつかり分  
かりました。子供の発言をみんなで考えることが  
できるようにきちんと整理して板書してくださ  
いました。五年生、矢部先生の授業では、構造的  
な板書がとても印象的でした。今後、同じ授業を  
される先生もいらっしやうと思いますので、こ  
ういう教材を引き継いで授業を行うことができるよ  
うに考えていきたいです。お互いのブラッシュアッ  
プを図っていくのも素敵だろうと思います。六  
年生、森先生です。「手品師」の授業です。「手品  
師」は有名な教材ですので、私も何度も授業しま  
した。誠実とは、ということを本当に考えること  
ができる教材だと思います。そういった教材を六  
年生で取り上げて、子供たちは真剣に語り合っ  
ていました。ちょうど私が見たときは、グループで  
語り合ったことを、大型提示装置に映しながら、  
みんなで確認し合っている場面でした。そして、  
みづばち学級です。冒頭で参観させていただきま  
した。羽場先生が教材の登場人物になりきって  
くださっていますね、そういう授業のスタートで  
した。また、考えたこと、感じたことを大型提示  
装置等に映しながら可視化して、みんなで把握で  
きるような状況もつくっていました。こうやって  
子供の思いを可視化しながら共有するというのは、  
非常に大事になってくるだろうと思います。

〈最後に〉

最後に、中教審の諮問について、もう一度、触

れておきたいと思えます。

四つの審議事項の一つが、質の高い、深い学び  
を実現し分かりやすく使いやすいう学習指導要領の  
在り方です。もしやすくと、いろいろな研究も分  
かりやすくしていくことが大事になってくるのか  
もしれないなと思うところです。よく話題にする  
のですが、言葉の整理、関係性の整理も今回、行  
おうとしておりますので、文部科学省のホームペ  
ジを意識してみただけるとありがたいです。  
次に、多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課  
程の在り方についても審議されていきます。この  
中には、デジタル学習基盤とか、柔軟な教育課程  
の編成の促進の在り方とか、こういったことが審  
議されていきます。このデジタル学習基盤は、次  
の三つ目の各教科等やその目標、内容の在り方と  
も関係してきます。特に、生成AI等に関わる教  
育内容の充実、情報モラルやメディアリテラシー  
の育成強化を含むというところまで示されていま  
す。先日、ある中学校のリーディングDXに関わ  
る公開研究会で、生成AIを中学校で活用した道  
徳科の授業について参観し、お話をさせていただきました。  
十二月二十六日に、生成AIに関わる  
ガイドラインのバージョン2が出ておりますので、  
まずは、先生方、それを絶対にご確認いただき  
たいと思います。そのバージョン2の中には、学習  
場面において利活用が考えられる例、不適切と考  
えられ例等が示されています。

そして、四つ目、教育課程の実施に伴う負担へ  
の指摘に真摯に向き合うことを含む、学習指導要  
領の趣旨の着実な実現のための方策についても審  
議されていきます。こういったことも注目しなが  
ら都小道研の研究も進めていただけたらと思  
います。

それでは、最後になりますが、今日、各部の発  
表や研究授業を行ってくださった先生方、そして  
一年間授業をおして研究を進めてくださっ  
た南小岩小学校の先生方にその感謝の思いを拍手  
で表したいと思います。これで終わりたいと思  
います。ありがとうございます。



各部研究活動報告

※各部の授業研究の詳細については都小道研ホームページをご覧ください。

調査部 部長 浮ヶ谷 優美

研究副主題「非認知能力の育成と道徳指導の関連」の新たな設定を受けて、調査部では、今年度の調査内容の大幅な見直しを行い、三つの設問を新設しました。

一点目は、非認知能力を「道徳科における児童の主體的な学び」と捉え、児童の主体性を計る指標として、「人としてよりよく生きるために大切なもの」を道徳科の内容(児童は二十、教師は二十二項目)から選択する方法により、児童及び教師のよりよく生きることへの課題意識を調査することとしました。調査結果からは、児童及び教師の課題意識の傾向やその違いを大まかに捉えることができました。

二点目は、「道徳科の目標に示された四つの視点」を意識した授業の充実をねらいとした問いを設けました。①道徳的諸価値について理解を深める、②自己を見つめる、③物事を多面的・多角的に考える、④自己の生き方について考えを深める、について指導の達成状況を問うことにより、道徳科の目標についての教師の意識や自己評価を調査しました。アンケート結果から、学習指導要領解説に示されている四つの観点を心がけた授業が展開されていることが分かりました。

三点目は、「道徳科の評価」について、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていく児童の姿をどんな場面で見取っているかを調査しました。道徳性に係る成長の様子を見取っていく評価方法の具体化が、今後の課題として浮き彫りになりました。

さらに、今年度初の取組として「調査のデジタル化」を試行しました。一次元コードを活用した回答と従来のアンケート用紙を併用した調査は、デジタル化に伴う不具合の報告もなく、その回答

が九割に上り、デジタル化への円滑なスタートができました。

研究部 部長 由良 隆

令和五年度においては、昨年度までの基礎研究を基に、研究仮説を「よりよく生きるための基盤となる道徳性と非認知能力は、『授業づくりの四つの視点』を重視した授業を展開することで育成することができる」と設定しました。授業づくりの四つの視点を効果的に活用することで、児童の道徳性と非認知能力の同時育成が実現できると考えたからです。

非認知能力については、次のように捉え設定しました。「問題意識を基に、道徳的諸価値等について自分事として向き合う力」「じっくり考えたり、話し合ったりして、自分に合った活動を充実させる力」「友達と同じ道徳的課題に向けて、対話し、考えを広げたり、深めたりする力」

授業づくりの四つの視点とは、次のとおりです。①自分を見る(自分の立ち位置を知り、よりよい未来を自分事として考える)②自分の問いを見いだす(自分の中の問題意識から、児童自身が納得する生き方について考えを深める)③よりよく生きようとする場面にふれる(教材の登場人物等の生き方に触れ、自分の生き方につなげる)④広く深く見る(独りよがりな考えにならない様に対話等を通じて、自分の考えを磨いたり、よりよい考えを見つめたりする)

これらの考えを基に、三本の授業研究を行い、次のような考察結果を得ました。授業研究において、非認知能力を発揮する児童の姿が随所に見られたことから、「授業づくりの四つの視点」を効果的に活用した授業が、非認知能力の育成につながったのではないかと考えます。今回設定した非認知能力の要素と道徳性の育成については一定の成果がありました。他の要素については定かではないため、継続して検証していきます。

部員一同、皆様のご指導を賜りながら、来年度も引き続き研究を深めていく所存です。よろしく

お願いいたします。

研修部 部長 土生津 静

今年度は、研究主題「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」について、副主題である「非認知能力の育成と道徳指導の関連を踏まえ、研修部としての理論を立て全四回の研究授業及び夏季集合研修を行いました。」

基礎研究では、文部科学省で掲げられている非認知能力の要素と道徳性を養うことを目標とする道徳科の学習が密接に関わっていることに着目し、道徳科の授業を積み重ねることが非認知能力の高まりにつながり、児童がよりよく生きるための基盤となる道徳性を育むことにつながると考えました。そこで、研究仮説を「自己と向き合い、他者と協働しながら粘り強く取り組むことで、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができる。」と立て、研究主題に迫る手立てとして、「自己と向き合うための指導の工夫」「他者と協働するための指導の工夫」の二つの視点を設定しました。

三つの視点を重視した授業を実践するに当たっては、これまでに研修部で行ってきた多様な指導方法の工夫を効果的に取り入れることで、より研究主題に迫ることができるのではないかと考え、指導方法の有効性と授業で見られた児童の姿などから検証しました。

主な成果と課題です。「成果」教師の明確な指導の意図をもった授業を行ったことで、現在の自己を自覚したり、これからの課題や目標を見付けたりする児童の姿が見られた。また、ICTの活用や少人数での話し合いを取り入れたことにより、友達と考えを出し合い、比較・検討し、道徳的価値を様々な視点から再考する児童の姿が見られました。「課題」学習の内容によって育つもの(道徳的諸価値について理解する、自己を見つめる、物事を多面的・多角的に考える、自己の生き方について考えるを深める)学び方によって育つもの(個別最適な学びと協働的な学び)がある。二つの視点

を基にして、道徳科の特質を生かした指導、授業の構成することが重要であると言えます。「授業実践の研修部」「広める研修部」として、今年度の研究を来年度の研究につなげていきたいと考えます。

事業部 部長 山岸 史子

今年度も研究授業と弥生会を開催しました。

研究授業 令和六年十一月二十日(水)五校時 主題名 他国の人々と仲よくするために C 国際理解・国際親善

教材名 「エルトルール号」 「友好の始まり」 授業者 青梅市立藤橋小学校 第六学年 前岩 範正 主任教諭

講師 東京都小学校道徳教育研究会 会長 吉田 友信 先生 (江戸川区立南小岩小学校 校長)

本年度の研究主題にある「非認知能力の育成と道徳指導の関連」を考えるに当たり、三つの要素のうち、「③友達と同じ目標に向けて協力し合う」が特に関連性が高いと考え、教材分析を行いました。発問構成図により、指導過程の明確化を図り、ICTを活用した導入での確かな教材理解のため資料提示や意見交流に加え、振り返りの前に教師の説話として、友好関係が分かるエピソードを入れることで、道徳的価値に迫ることができるよう工夫をしました。

その後、引き続き行われた弥生会では、吉田会長からの今年度の都小道研の活動等についての説明があり、参加者の皆さんと今後の活動への期待等を語り合いました。次年度は、より多くの先生方が道徳授業について語り合い、よりよい授業づくりに向かっていただけのように、都小道研会員以外の先生方も、道徳授業についてともに学び合う機会を考えていきたいです。